

2023年度（令和5年度）事業計画書

公益財団法人大阪ユースホステル協会では、「青少年の健全育成」に2023年も積極的に取り組んでまいります。コロナ禍で中止または自粛していた活動やプログラムを早期に再開します。また、目まぐるしく変化する社会情勢に対応し社会貢献を意識しながら防災・減災の観点をもったプログラムを実施してまいります。

各々違う特色・個性を持った4施設の魅力を最大限にいかすよう、単なる宿泊施設とせずより付加価値を感じられる運営を進めます。23年度は協会ホームページやチラシ等だけにとどまらずよりSNSを利用した広報を実施するとともに、新規顧客開拓のため営業活動も積極的に進めていきます。また、施設では利用者満足を最優先に考えた施設整備・接客対応により注力致します。

基本方針

1. 青少年育成の取組み

個性の異なる4施設において各種主催事業や青少年事業を通じて、ユースホステル運動の推進と青少年健全育成に取り組んでまいります。また、近畿ブロックユースホステル協会と連携して青少年対象の事業を共同企画・広報活動の強化に取り組んでまいります。

2. 利用者視点に立った事業運営と施設運営

現在利用の中心となっている、青少年団体や学校団体・スポーツ団体の為の宿泊施設として、また企業の研修施設としてより満足度向上を目指して直営・指定管理の各施設を運営してまいります。

今後大幅に増加が予想される海外からの利用者にも、より快適なサービスを提供できるようしっかりと改善・準備をすすめます。

また、利用者の安全・快適を最優先に施設の改修・修繕を計画的にすすめます。

3. 新規利用者獲得

コロナ禍において利用者の多くは価値観・生活習慣・行動パターンが大きく変化したと考えております。既存の利用者に対ししっかりとサービスを提供・向上を目指すと同時にコロナ後の新しい習慣・ニーズに対応し新規利用者を獲得すべく「営業企画部」を新設致します。各種企業・学校・アウトドア団体やインバウンド旅行社への営業や、新しい手法での広報・利用者へのアプローチ等を積極的に進めてまいります。

事業計画

1. ユースホステル運動

ユースホステルおよび青少年施設の管理運営を行い、国内外の青少年および青少年を取り巻く幅広い年齢層の方々の施設利用を通じて青少年の健全育成を図ります。会員の維持と新規会員の獲得、ユースホステルを知らない層への積極的なPRを行い、ユースホステル運動の発展に努めます。

2. ユースホステル協会の運営と事業展開

利用者の回復傾向をしっかりと軌道にのせるとともに、2025年の「大阪・関西万博」に向けて、利用者数・利用料金収入ともに目標達成のための様々な施策を実施し、管理運営している4つの事業部（ユースホステルおよび青少年施設）の足元を固めます。

大阪市立長居ユースホステルの運営開始時には、要員を各事業部から捻出し、また退職者の補充も見送っていましたが、力強く運営を推進するため2023年3月から4月にかけて5名の採用を予定しています。また、労務管理と経理処理において各事業部をクラウドで接続してIT化を進め、効率を高めます。

(1) 組織運営と魅力の向上

- ① 職員の新規採用
- ② 業務の効率化（IT化とペーパーレス化の推進）
- ③ 各施設を統合した予約システム導入のための研究
- ④ 職員の処遇改善とスキルアップのための研修等諸策
- ⑤ 施設ごとに開発した、あるいは得意なジャンルの共有化による全体としての底上げとさらなる発展への取組み
- ⑥ ボランティアリーダーの募集と育成

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 日本ユースホステル協会との連携と相互協力
 - ・日独青少年指導者セミナーの視察および宿泊施設としての受入と職員のドイツへの派遣
- ② 近畿ブロックユースホステル協議会の一員としての活動
- ③ 大阪府・大阪市など指定管理委託者との調整

- ④ 関係各機関との連携と相互協力
 - ・青少年活動団体・野外活動団体・子ども会・青少年施設
 - ・運動に理解のある企業・団体・組織等
- ⑤ イベントへの参加・出展
 - ・モンベルフェアや大阪市こどもカーニバルなど
- ⑥ 大阪府観光局との連携（資料提供・広報・研修会・商談会等）
- ⑦ 大学ユースホステルクラブの活動支援と相互協力

（3）利用促進・広報活動

- ① 4施設を統合したパンフレットの作成と、営業チーム「営業企画部」の編成による大阪ユースホステル協会全体としての営業・広報
- ② 家族会員証無料発行および近畿各地のユースホステルの相互紹介による会員増および利用増への取組み（近畿ブロックとして）
- ③ SNSや各種パブリシティーを有効活用した情報提供や広報
- ④ 主催事業の参加や団体での利用をきっかけとした、参加者各位に対するユースホステルへの誘客

（4）事業の企画と実施

- ① こども事業
休止が長引いたため、リピーター参加者・運営ボランティアリーダーとともに、関係性が途絶えている。これらの再構築を図りながら、新しい事業展開につなげたい。
- ② ウォーキング事業
休止が長引いたが、徐々に再開にこぎつけた。
 - ・日帰りハイキング
 - ・一発チャレンジ100km歩行
 - ・伊勢迄歩講
- ③ 社会貢献事業
日本ユースホステル協会・大阪府母子寡婦福祉連合会と協働し、「旅する機会に恵まれない子ども達に宿泊の機会を」という目的で実施していた「スリープフォーピース」の再開を模索する。
- ④ 会員サービス事業
 - ・旅行相談会
 - ・海外からの旅行者に向けたインフォメーション活動や日本文化の体験活動

3, 新大阪事業部(大阪市立青少年センター・新大阪ユースホステル)

様々なタイプの貸室があり、宿泊もできるという施設特性をアピールし、宿泊と貸室（日帰り）の併用利用を促進し、相互に利用増を目指します。

日帰り利用では、会議・打合せなどをリモートに切り替える傾向が顕著になってきています。これを利用に結びつけるため、リモート用ブースの導入の検討や、リモート接続がスムーズになるよう設備備品を整えていきます。音楽練習室は比較的高い利用率を維持していますので、付属設備を充実させることで、さらなる利用促進を図ります。また、ホールや録音設備のあるスタジオなど特徴的な施設についても、利用者ニーズの把握と新しい事業企画の立案などで、リピーターの確保・新規顧客開発の両面から利用増に取り組めます。

宿泊（新大阪ユースホステル）部門では、新型コロナウイルス感染症による行動制限の解除に伴い、過去利用団体・教育旅行を取扱う旅行代理店・インバウンド専門のエージェント等に営業活動を行うとともに、反響の大きかった小中学生プランを強力に推進し、他の宿泊プランもさらなる利用に向けて広報に工夫を加えて継続します。なお、大阪市による空調設備更新工事の実施により、2024年1月17日～2月21日の間、休館を予定しています。

ココカフェについては業態の見直しを行い、ステージや厨房設備を活かして、飲食提供ができる会議室・発表会会場・イベント会場として運営します。食事や弁当の希望にはユースホステルの食堂での対応に移行します。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① リモート会議需要を取込むための設備機器の導入・更新
- ② アンケートや聞き取り調査による利用者ニーズの把握と、それに伴う設備・備品の更新とサービスの向上
- ③ クラシックはじめ各種コンクールの音源審査用録音・デモ音源の制作など、音楽スタジオ・MAスタジオの利用促進策の立案と実施
- ④ 青少年事業・自主事業・宿泊者サービス事業のリニューアル
- ⑤ 魅力ある宿泊パックの造成

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 施設の市民開放イベント（KOKO 秋フェスティバル）の実施
- ② 地域の夏祭りへの出展と運営協力
- ③ 小学校の職業体験・特別支援学校の体験学習・大学生のインターンシップなどの受入
- ④ フードバンクとの連携（キッズカフェ）

(3) 利用促進・広報活動

- ① 併用利用の強化・促進（宿泊と会議、合宿、研修など）
- ② ホール利用者のリピーター化の推進強化
- ③ 大阪市広報誌「いちょう並木」への掲載
- ④ 周辺小学校へのこども対象事業の情報提供や各種施設へのチラシの配架
- ⑤ 宿泊パッケージプラン
 - ・小中学生応援宿泊パック・家族&グループプラン・夜行バスプラン・観劇観戦プラン・就活パック等
- ⑥ ホームページやSNSによる広報
- ⑦ 日本ユースホステル協会を通じた広報

(4) 事業の企画と実施

- ① こども・青少年対象事業
 - ・ここぷらキッズイベント 年間を通じ6回
 - ・KIDS DANCE（初級・中級） 通年
 - ・KOKO☆チアリーディング 通年
 - ・七夕（短冊に願いを記し笹に飾る） 7月
- ② 家族対象事業
 - ・キッズカフェ（遊びと子ども食堂） 年4回
- ③ 一般対象事業
 - ・KOKOでうたおう！童謡ひろば 毎月
 - ・カルチャー教室（ピアノ教室ほか） 通年
 - ・ふんふん寄席 in KOKO 隔月
 - ・フォークソングナイト 隔月
 - ・KOKO de CONCERT 年間を通じ3回
 - ・KOKO秋フェスティバル 10月
 - ・サンクスギビングフェスタ
（施設練習利用者対象の発表会） 3月
 - ・年末年始イベント（宿泊者対象） 12・1月

(5) 利用獲得目標

	2023年目標	2022年見込	2018実績
貸室(文化ゾーン)	175,000人	135,700人	243,850人
稼働率	50%	42%	
宿泊(新大阪ユースホステル)	16,000人	9,000人	20,412人
稼働率	38%	20%	

4, 羽衣事業部(大阪国際ユースホステル・羽衣青少年センター)

施設の運営面では、コロナウイルス流行からの本格的な回復に向けて、特に団体宿泊利用の促進、炊さん場の利用増、自主事業の収益増に注力します。同時に施設に課せられた役割を全うするために、近隣施設やボランティアとの協働、普段できない体験活動の提供、世代間交流などのプログラムを引き続き提供します。

施設管理においては、老朽化した設備の更新とあわせて、コロナ期間中先送りになっていた照明器具のLED化を進めます。

また、働きやすい職場作りへのアプローチとして、労働時間の見直しと生産性の向上を両輪とした、ルーティーンワークの見直しと効率化、および外部研修への参加も含めたスタッフ各位のスキル向上のための取組を行います。

(1) 施設の管理運営と魅力の向上

- ① 排水設備の高圧洗浄清掃
- ② 施設照明のLED化推進、炊さん場の一部照明に太陽光発電を活用
- ③ 研修棟と一部宿泊棟の空調設備の更新・改修
- ④ 宿泊棟洗面台の排水管の交換
- ⑤ 大浴場の換気扇更新と改修
- ⑥ 炊さん場運営方法の一部変更と売店設置など利用者サービスの向上
- ⑦ アンケートや聞き取り調査を通じた利用者満足度向上への取組み
- ⑧ 節電・節水等をオリエンテーションやポスター掲示等で啓発
- ⑨ 新規ボランティアの募集と育成

(2) 地域・行政・機関との連携

- ① 浜寺公園をはじめとする近隣施設との共同イベントの実施やプランの販売
- ② 近隣小学校の街探索(見学)の受け入れ
- ③ 近隣の大学と連携した事業の実施

(3) 利用促進・広報活動

- ① 外国人技能実習生の合同研修場所としての営業活動の実施
- ② 学校やインバウンド団体へ定期的な誘致営業の継続
- ③ 過去利用団体の再利用に向けた営業活動の継続
- ④ スポーツ団体誘致活動の実施
- ⑤ SNSを活用した広報活動の継続
- ⑥ 公園利用者をターゲットにしたランチ提供の再開
- ⑦ 高石市教育委員会の協力のもと、青少年育成会等での広報活動
- ⑧ 日本ユースホステル協会を通じた広報

(4) 事業の企画と実施

- ① こども対象
 - ・はごろもキッズデイキャンプ 年間を通じ3回
 - ・キッズクッキング 10～3月 3回×2コース
- ② 家族対象
 - ・アウトドアクッキング 6月・2月
 - ・親子で防災 9月
- ③ 成人対象
 - ・教室事業 (ヨガ・ピラティス・太極拳等) 33教室
 - ・歌レク 8月を除く毎月
 - ・寄席 5・9月
 - ・ノルディックウォーキングツアー 6・2月
- ④ 地域と連携した施設開放の事業
 - ・友×遊フェスティバル 11月
- ⑤ 宿泊者を対象とした事業
 - ・大晦日～元旦の宿泊イベント 12・1月
- ⑥ 食堂を利用したイベント
 - ・ワインとワインにあう食事を楽しもう 10月
 - ・日本酒と日本酒にあう食事を楽しもう 2月

利用獲得目標

	2023年度目標	2022年度見込	2018年度実績
羽衣青少年センター	105,000人	62,000人	133,814人
稼働率	23%	14%	25%
大阪国際ユースホテル	20,000人	11,000人	24,140人
稼働率	25%	14%	31%

5. 貝塚事業部（大阪府立少年自然の家）

長く続いたコロナの影響を払拭すべく、より安心・安全・快適な施設運営を推進します。利用者数の回復をはかり目標を達成するために、学校団体はじめ、青少年団体・スポーツ団体など、自然の家の特性を活かせる利用者層に積極的に働きかけると共に、インバウンドの誘致を進めます。また、2022年度後半に始めたSNSへの有料広告掲載を、効果測定を行いながら本格的にスタートさせ、新たな層への浸透をはかります。

今日的な課題への取り組みとしては、「防災教育プログラム」の推進や、各種実施事業にSDGsの要素を織り込むなど、社会問題への意識づけを行い、自然の家のスタンスをより広く世間にアピールします。

- (1) 施設の管理運営と魅力の向上
- ① 森林・登山道・テントサイトなど屋外施設の整備と充実
 - ② 水回りをはじめとした屋内施設・設備の整備（老朽化部分は大阪府と協議の上）、未実施部分のLED化のさらなる推進
 - ③ HACCPに添った食堂の衛生管理の実施
 - ④ 食物アレルギーや摂食障がいへの対応
 - ⑤ アンケートや聞き取り調査を通じた利用者満足度向上への取り組み
 - ⑥ 実施事業や利用者支援を行うボランティアリーダーに対する定期的な研修など、スキルアップのためのサポート体制を強化
- (2) 地域・行政・機関との連携
- ① 出前講座の実施により、施設外においても体験活動を推進する
 - ② 学校・行政・地域(公民館・子ども会等)への講師派遣
 - ③ 大学生のインターンシップの受入
 - ④ 障がい者の就労実習の場を提供
 - ⑤ 「貝塚自然遊学館」「善兵衛ランド」など、近隣諸施設との連携
- (3) 利用促進・広報活動
- ① YouTube 等動画共有サービスを使用した施設の紹介により、施設の広報および利用者の下見負担の軽減をはかる
 - ② 学校およびインバウンドの受入強化のために、学校・旅行代理店の教育旅行部門・インバウンド受入を取り扱う旅行エージェントに営業活動を行う
 - ③ ホームページの随時リニューアル、SNSによる情報発信とフォロワー増に取組む
- (4) 事業の企画と実施
- ① 子ども対象

・フォレストジュニアクラブ	年間を通じ4回
・こどものための自然体験活動	
・こどもシャワークライミング	7月に2回
・こどもツリーイング	2月に2回
・こどもワイルドキャンプ	8月
・中高生チャレンジキャンプ	8月
・アドプトフォレスト事業	11月
・プログラミングキャンプ	12月

- ② 家族対象
- ・親子 de しぜんのようちえん 年間を通じ4回
 - ・ファミリーキャンプ 9月
 - ・小学校低学年を含むファミリーキャンプ 年間を通じ3回
 - ・家族でたき火を楽しもう 1・2月に計4回
 - ・防災キャンプ 3月
- ③ 指導者養成
- ・野外活動指導者講習会 1月
- ④ 知的障がいのある子どもの支援
- ・乗馬体験と臨床動作法 10月
- ⑤ 対象や年齢を限定せず府民が気軽に参加できるイベント
- ・ゴールドデンウィーク宿泊パック 4・5月に計4回
 - ・ホテル観賞の夕べ* 6月に2回
 - ・森の中で流しそうめん* 8月に3回
 - ・ツリーイング* 9月に2回
 - ・ダッジオープンで野外料理にチャレンジ* 12月に2回
 - ・冬の宿泊パック 1月に2回
- ⑥ 野外活動と他分野の融合
- ・絵本に登場する料理を作ろう* 9月に2回
 - ・えほんのひろば 11月
- ⑦ 大人向けの自然体験活動
- ・女性のためのソロキャンプ 年間を通じ4回
 - ・おとなのえんそく 8月・12月
 - ・シルバー生涯学習 DAY 申込みに応じ随時
- ⑧ 地域・行政・企業他との連携事業
- ・大阪府アドプトフォレスト 11月
 - ・自然の家オープンデー 11月
 - ・おおさか元気広場 出前講座 申込みに応じ随時
 - ・インターンシップ(就労体験)推進事業 申込みに応じ随時

* 印：バーベキューガーデンイベントとして実施

(8) 利用獲得目標

	2023年度目標	2022年度見込	2018年度実績
日帰りおよび宿泊利用	89,000人	41,750人	94,290人

< 共同事業体 一般財団法人大阪府青少年活動財団 >

6. 長居事業部（大阪市立長居ユースホステル）

ヤンマースタジアムなどの各種スポーツ施設ほか長居公園の各種施設と一体感のある個性的で魅力ある宿泊施設としての運営、およびその魅力を最大限発揮するための様々な事業に取り組みます。

個人やファミリーなど旅行者向けには、公園内の他施設を楽しむプログラムと宿泊のセットプランを、団体向けには集会室や自炊コーナーの活用や、スタディツアーの滞在拠点として、誘致を行います。この他、サッカースクール体験や相撲を絡めた文化交流など、自主事業も積極的に展開してまいります。

（1）施設の管理運営と魅力の向上

- ① 施設機器の維持管理や衛生保持を適切に実施するため、スタッフのスキル向上と委託業者の適切な選定を実施
- ② おむつ交換台の設置
- ③ 1階集会室利用者専用の授乳室兼更衣室を整備
- ④ 3階E Vホール前に電飾イルミネーション設備を設置
- ⑤ 鳥類の糞害対策（バルコニーの定期清掃）

（2）地域・行政・機関との連携

- ① 自治会との積極的な関わり
- ② ネットが苦手な世代にも情報が行き渡るよう、地域の広報誌や生涯学習情報誌を活用し、事業をPRする
- ③ コミュニティー施設として、相互にチラシを配架し、双方で旬な情報発信に努める
- ④ 近隣小・中学校の業務体験やインターンシップの受入
- ⑤ NPO法人大阪府高齢者大学校と連携し、長居を会場とした講座の開講や、新しい事業プログラムの開発を行う

（3）利用促進・広報活動

- ① 長居公園の他施設とのコラボレーション（宿泊とのセットプラン）
・植物園・チームラボボタニカルガーデン・ヨドコウ桜スタジアムとヤンマースタジアムの見学ツアー・セレッソ大阪ホームゲーム観戦
- ② 集会室と自炊室設備がある利点を活かし、インバウンド団体向けに文化交流を目的としたスタディツアーや技能実習生の法定研修場所として関連企業に提案
- ③ 併設の集会室の稼働率アップのため、青少年団体合宿（空手、少林寺拳法、吹奏楽、合唱、ダンス、劇団、珠算、将棋など）を誘致

- ④ 東住吉区の成人式における着付けなどの場所としての利用促進プランの構築
- ⑤ 昨年好評だった絵本の読み聞かせと絵本に出てくるお菓子や食事を楽しめる宿泊事業の回数を増やす
- ⑥ SNSを使用した営業施策の活性化
- ⑦ 日本ユースホステル協会を通じた広報

(4) 事業の企画と実施

- ① こども対象
 - ・KIDS DANCE (リトル・キッズ・ティーン)の3クラス 通年
 - ・飛び込め!絵本の世界 6月・11月
 - ・ベビー体軸教室 6月・7月
 - ・サッカーキャンプ2023 6月又は10月
 - ・障がい者ミライリーダーキャンプ 11月
- ② 一般対象
 - ・健康体操ヨガ (木・金曜コース) 通年
 - ・温活ヨガ (金曜コース2部制) 通年
 - ・リラックスヨガ (木曜コース) 通年
 - ・ふれあい卓球 (火・金曜コース) 通年
 - ・童謡コーラス in 長居 年間を通じ4回
- ③ 食堂を利用したイベント
 - ・長居植物園とのコラボ弁当 5月
 ※NHK連続テレビ小説『らんまん』の主人公で高知県出身の植物学者である牧野博士をイメージ
 - ・ハロウィンランチ 10月
 - ・クリスマスランチ 12月
 - ・オートミールランチ 3月

(5) 利用獲得目標

	2023年度目標	2022年度見込み
宿泊利用人数	9,000人	4,100人
稼働率	21%	14%
集会室稼働率	33.0%	27.9%

以上